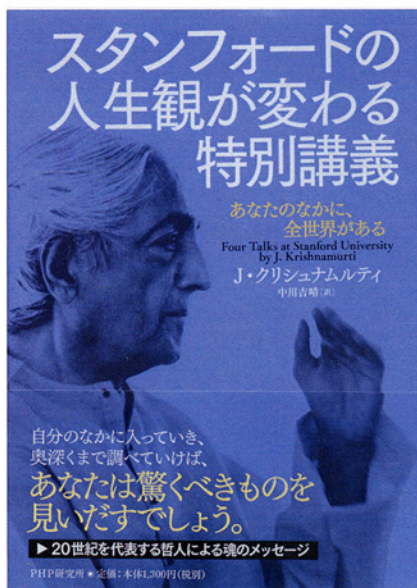


J・クリシュナムルティ／中川吉晴・訳 PHP新刊のご案内



スタンフォードの 人生観が変わる特別講義

46判ハードカバー 144ページ
定価：1,365円（本体：1,300円）
2013年5月14日より全国書店にて発売

あなたは驚くべきものを見いだすでしょう。

——自分自身のなかに世界全体があるのです。
それをどう見るのか、どう学びとるのかを知れば、
鍵はあなたの手の中にあります——。

【内容紹介】

——あなたが努力も恐怖もなく、いかなる意味での制約もなく自分のなかに入っていき、本当に奥深くまで調べていけば、驚くべきものを見いだすでしょう。おまけに一冊の本も読む必要がありません。（中略）自分自身のなかに世界全体があるのです。そして、それをどう見るのか、どう学びとるのかを知れば、扉はそこにあり、鍵はあなたの手の中にあります——。

本書は「20世紀を代表する哲人」と言われるクリシュナムルティが、スタンフォード大学で行った4回の連続講演です。

理想やあるべき姿を追求するのではなく、いまここにあるものをありのままに見ることが、ただそれだけが、精神の葛藤や苦しみを終わりにし、私たちを根本から変えていく、そしてその時こそ、世界は変わると静かに語りかけます。

深い感動とともに、人はこの瞬間にも、根本的に変わりうるのだと知る珠玉の講演録。

【著者紹介】

J・クリシュナムルティ

1895年、南インドに生まれる。

14歳の時、神智学協会の要人に「世界教師」の候補者として見いだされ、ヨーロッパ各地で学ぶ。さまざまな教育を受けた後、1921年、インドに帰国。彼のために用意された「星の教団」の指導者となるが、「真理は道なき領域であり、いかなる宗教、いかなる宗派によってもそれに至ることはできない」と宣言し、34歳で同教団を解散。

以後、世界各地をまわり、著名人との対話や、数多くの講演、著作などを通じて「人間を絶対的に、無条件に自由にすること」に生涯を捧げた。1986年、アメリカ、カリフォルニアのオーハイ峡谷で逝去。

【目次】

一日目 世界が変わるために

「まず世界を変えよ」という考え方／心理的な革命はいかにして起こるか
ありのままの自分に気づく／「現にあるもの」に向き合う
あらゆる権威を捨て去るとき／言葉は決して事柄そのものではない
分析をとおして恐怖は払拭できるか／観察者は観察されるものである
距離をはさまずに見る／思考はすっかり静まるのか
愛は快樂なのか／意志を働かせずに行動する
完全に注意深くなるということ／不注意に気づく／人を喜ばせることが大切なのではない

二日目 私を囲む壁を離れて

自分をとり囲む壁をつくる／偏見や恐怖による条件づけ
精神を条件づけから自由にする／一緒に探究の旅をしていく
真の内的な革命とは何か／恐怖は自由を破壊する
人はなぜ恐れるのか／壁はどのように生じるのか
思考が壁を生みだす／思考の干渉なしに生きる
見ることが分離の壁を壊す／問題を見つめることのなかに答えはある
無垢な精神だけが至福を得る／愛と呼ばれるものの快樂と苦痛
無秩序の否定が変化の本質である／思考がやむとき、静けさがおとずれる
愛は壁のないときに起こる

三日目 愛と死について

私たちが変わらない理由／人は自分自身を知ることができるか
関係のなかでのみ、自分を観察できる／観察者をもたないで、ただ観察をすること
私たちの実際の人生とは何なのか／誰も私たちを助けられない
不安と恐怖を打ち破る自由のエネルギー／愛や死とは何か
死ぬときに起こること／手放すことが死ぬことである
「愛」と呼ばれているもの／なぜセックスはこれほど重要になったのか
精神が完全に静まる時、とほうもない変容が起こる／私とあなたに根本的なちがいがいない
努力とは何か／壁を取り去るとき、愛が起こる／判断や非難をはさまずに、ただ自分自身を見る
変われる人、そうでない人／絶望を見つめる

四日目 瞑想という精神のあり方

情熱と美について／「瞑想」として理解されているものを捨て去る
言葉をくり返し唱え、精神は鈍くなる／姿勢や呼吸法は重要ではない
方法や権威を完全に捨て去る／正しさ、美徳、秩序という基盤を築く
見るという行為が精神を自由にする／無意識を分析することはできない
人はなぜ夢を見るのか／精神が静まるということ
全面的な注意とは何か／精神が「経験」を追い求めるとき
静けさとは何か／瞑想の扉が開かれる
自分自身のなかに全世界がある／美は、あなたのなかにある